

## 【構築予定のローカル5G環境の特徴】

### ①スタンドアローン方式

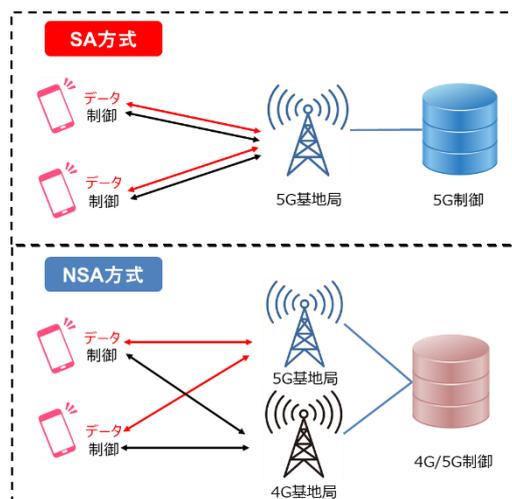
5Gには、コアネットワークも基地局も5G対応したスタンドアローン（Stand Alone：SA）方式と4Gコアネットワークと5G基地局を連携させたノンスタンドアローン（Non-Stand Alone：NSA）方式の2通りがある。SA方式は、NSA方式に比べて最新の技術で、低遅延、多数同時接続という5Gの能力を最大限に引き出すことができるネットワークとして今後の主流となる。

#### ・SA(Stand Alone)方式

データ通信と制御の両方を5Gネットワーク（基地局・5G制御）のみで行うピュア5G無線アクセスネットワーク構成。

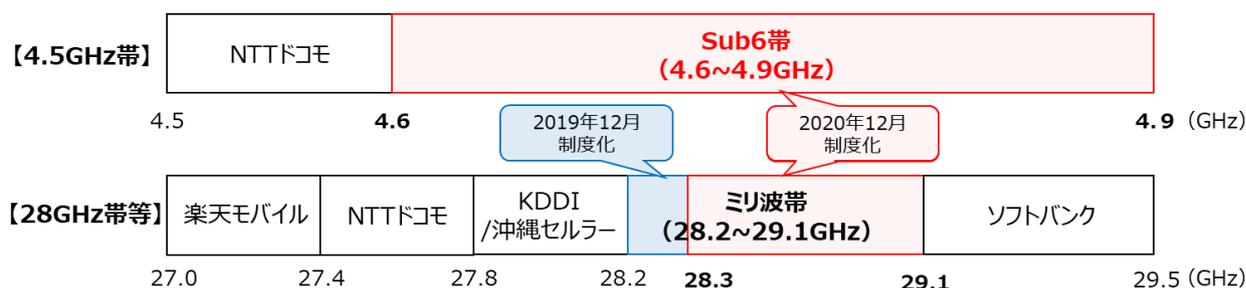
#### ・NSA(Non Stand Alone)方式

データ通信は5Gネットワーク、制御を4Gネットワーク（基地局・4G/5G制御）にて行うハイブリッド型の無線アクセスネットワーク構成。



### ②Sub6帯

ローカル5Gに利用可能な周波数帯は、ミリ波帯（28GHz帯：28.2～29.1GHz）に加え、2020年12月に利用可能となったSub6帯（4.5GHz帯：4.6～4.9GHz）がある。Sub6帯を活用することにより、強い直進性かつ障害物の影響を受けやすいミリ波帯に比べて、より広範囲かつ障害物の影や建物内も含めたエリアカバーが期待される。



ローカル5Gの使用周波数帯域